

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |   |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                      | ユニットに理念を掲示、会議等職員が集まった際には唱和、全職員で共有し理念に基づいたサービスの提供を実践している。  | 理念については各ユニットに掲示し、全体会議やユニット会議の席上唱和し共有に努めている。利用者や家族に対しては利用契約時に理念に沿った支援について説明している。職員は理念の持つ意味を理解し支援に取り組んでいるが、理念に沿っているかどうか気づいたことがあればその都度注意し合い利用者に気持ち良く過ごしていただけるようにしている。また、年間目標については会議の席上振り返り、フォローし合いながら支援の充実に繋げている。                                      |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                      | 区の自治会へ加入、区費をおさめ一つの組として回覧を回している。地域の方も気軽に声をかけて下さる。例年であれば地域の行事などへ参加、地域の方やボランティアの方との交流に努めているところだが感染症対策のため控えている。 | 当ホーム1丁目、2丁目の2ユニットが地区の13組としてそれぞれ区費を納め、地域の一員として活動している。例年だと区の防災訓練やどんど焼き等に参加したり、「歌」「腹話術」「二胡演奏」等のボランティアの来訪があるが、現在は新型コロナの影響を受け中止しており残念な状況が続いている。そのような中、地区の英語教室の生徒がハロウィンに来訪し交流したり、地区の育成会の子供たちとの玄関先での交流を9月に予定している。また、新型コロナ収束後には地区の保育園、小学校との交流活動を進める予定にしている。 |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                    | 感染症対策のため文書での開催ではあるが運営推進会議の開催、地域の方にもご参加いただき理解を広めている。   |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 感染症対策のため運営推進会議に替えて文書で報告、意見をいただき結果を議事録としてまとめ郵送、回覧している。   | 通常であれば、利用者代表、家族代表、区評議員、民生児童委員、あんしん(介護)相談員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、対面で開催しているが、現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け書面での開催となり利用状況・スタッフの体制等の報告、事故報告、行事報告等を議事内容として纏め、合わせて返信用封筒と意見・要望用紙を郵送し、ご意見などをお返し頂きサービスの向上に繋げている。   |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる           | 日頃より積極的に連携を図るよう努めている。   | 市高齢者活躍支援課、地域包括支援センターとは新型コロナの感染対策等、様々な事柄について積極的に連携を取り運営に役立っている。介護認定更新調査は新型コロナ禍の中、看取り等、変化があった利用者のみについて調査員が来訪し行い職員が対応している。あんしん(介護)相談員の来訪も現在は中断されているが、コロナ収束後には再開を予定している。  |                   |

グループホームうえまつ

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 安全への配慮より玄関の施錠を行っている。出入り自体は制限なく外出時は職員が付き添い対応している。身体拘束廃止委員会を2か月に一度開催、身体拘束適正化の指針を整備し、定期的に職員研修を行い、新規職員には入社時に研修を行っている。 | 2ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開き、それと合わせて年3回身体拘束・虐待防止研修会を行い職員の意識を高め、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は道路に面しており安全確保のため施錠されているが、玄関先には外気浴用のテーブルとイスが設置されており職員が付き添い安全で楽しい運用を心掛けている。帰りたいという想いが強い方や外に出ていこうとする方がいるが、職員は想いを傾聴し帰りたい原因や理由を知り、それらに応じ対応することで安心していただけるようにしている。転倒・転落の危険のある方が数名おり、家族と相談しながら人感センサーを使用し、安全確保に努めている。                                 |                   |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている           | 外部研修に参加、定期的に内部で研修を行い虐待防止への認識を高めるよう努めている。  |  |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している       | 成年後見人制度を利用されている方がいらっしゃる。外部研修に参加、内部研修を行い理解を深めている。  |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                            | 書面にて同意をいただいている。不安や疑問の残らないよう懇切丁寧を心掛け説明するよう心掛けている。  |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                        | ご家族、ご利用者様から頂いたご意見はミーティングや申し送りなどで共有している。苦情受付箱を玄関に設置、重要事項に苦情受付に関する事項を記載、入居時に説明をしている。                                | 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け家族の面会については制約を受けながらの対応が続いている。現在は事前に予約を頂き、時間の制約はせず玄関での窓越し面会としており、耳の遠い方についてはホームの電話を使用しての面会や筆談での面会も行っている。そのような中、4～5月の2ヶ月で延べ30数軒の家族が面会に訪れ、利用者も安心した笑顔で話をされていたという。また、ホームでの様子は毎月発行されるお便り「グループホームうえまつ」と各ユニットの担当者による利用者個別のお便りを請求書に添えてお届けし、家族からも感謝の言葉を頂いている。また、誕生日、母の日、父の日には家族よりメッセージカードや花などが送られ利用者も喜ばれているという。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている   | 年に一度職員面談を実施、意見を取り入れ改善に向け対応している。   | 月1回全体会議を行い、法人からの連絡事項、市からの「感染対策」等の通知、各種勉強会、意見交換等を行っている。合わせて月1回利用者一人ひとりのカンファレンスを中心にユニット会議を行い、支援内容の充実に繋げている。また、年1回、法人理事と管理者による個人面談が行われ法人の考え方や職員との意見交換の場が設けられモチベーションアップに繋げている。   |                   |

| 自己                          | 外部 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|-----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
|                             |    |  | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12                          |    | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 面談の際に状況を確認、職員の配置や環境の整備、意見を取り入れ改善に向けて対応している。                                  |      |                   |
| 13                          |    | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 外部研修は感染症対策のため計画通りとはいかなかったが内部研修を実施、働きながら研修を受けるための有給の使用や優先して勤務体制の調整など環境を整えている。 |      |                   |
| 14                          |    | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 感染対策のため交流会などへの参加は控えたが電話等で情報交換は積極的に行ってきた。                                     |      |                   |
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |  |  |      |                   |
| 15                          |    | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 事前面接にて生活歴や現状の確認を行い、不安や希望を把握したうえでご本人の気持ちに寄り添いなじみの関係を築けるよう努めている。               |      |                   |
| 16                          |    | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 事前面接の際に十分な時間を持ち、要望等をうかがいその思いを理解したうえで良好な関係を築けるよう努めている。                        |      |                   |
| 17                          |    | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 必要なサービスを見極め適切なサービスに結び付けることができるよう努めている。                                       |      |                   |
| 18                          |    | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 利用者様が自立した生活を送ることができるよう、ご自分でできることを楽しんでいただき、その邪魔とならないようお手伝いをする様努めている。          |      |                   |
| 19                          |    | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 感染対策のため面会に制限があったが体調などの変化も電話やタブレットなどを利用し密に相談、報告をし対応してきた。                      |      |                   |

グループホームうえまつ

| 自己                                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
|                                    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20                                 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                    | 感染症対策のため制限があったがご近所の方の訪問や差し入れ、電話の取次ぎや手紙のやり取りなどを支援してきた。  | 現在新型コロナの影響を受け、友人、知人、兄弟等との面会は中止されているが、電話や手紙のやり取りをされている利用者がいる。また、3ヶ月に1回、馴染みとなった、3回のワクチン接種を済ませた福祉施設専門の理美容師が来訪し玄関先で散髪をしている。合わせて利用者が使い慣れたシャンプーや好きな飴等の雑貨品については職員が購入し利用者に渡している。更に、年末には利用者全員がそれぞれの力量に合わせ「はんこ」等も用い、年賀状を作成し家族に発送し喜ばれている。  |                   |
| 21                                 |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている                | 余暇活動や日々の生活の中でそれぞれのかかわりを大切にし、良好な関係が継続できるよう支援に努めている。時にはトランプなどのゲームに職員と一緒に参加、皆様と一緒に楽しめるよう支援している。 |   |                   |
| 22                                 |     | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も関係を大切にしている。必要があれば支援する準備がある。  |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |     |   |  |   |                   |
| 23                                 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | ご本人の意向や希望を把握するよう努めている。これまでの暮らしやなじみの環境、趣向などこれまでの生活環境を把握し、これからの生活に活かすことができるよう努めている。            | 若干名の利用者が言葉での意思表示が難しい状況であるが問い掛けに対する表情等から時間をかけ思いを受け止めるよう心掛けている。他の多くの利用者は意思表示の出来る状況であり優しく寄り添い話をする中で意向を汲み取るようにしている。遠慮がちな方もいるのでお昼寝の時間等に事務所で話を聞き、希望に沿えるようにしている。日々の支援の中で気づいた事柄についてはパソコンの中の介護記録と申し送りノートに纏め、申し送り時に確認し合い日々の業務に入るよう徹底している。 |                   |
| 24                                 |     | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                    | 馴染の環境や趣向などこれまでの生活環境を把握し、これからの生活に活かすことができるよう努めている。  |   |                   |
| 25                                 |     | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                  | ご本人にとっての生活機能の維持、向上ができるよう、生活のリズムや既往歴、健康状態、持っている力を把握するよう努めている。                                 |   |                   |

グループホームうえまつ

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している              | 関係者との話し合いの機会を設け、ご本人、ご家族の意向を確認したうえで計画を作成している。関わる職員全員が情報を共有し穏やかに生活していただけるよう努めている。 | 職員は1名の利用者を担当し、居室管理と毎月の家族宛手紙の作成を担当している。月1回のカンファレンスで意見を出し合いモニタリングを行い、合わせて計画作成担当者が本人の様子を見て話をしたり、家族にも電話で様子を伝え希望を聞き、プラン作成に繋げている。入居時は暫定で1~3カ月のプラン作成を行い様子を見て、その後短期目標を6ヶ月とし、更に、状態が安定していれば長期目標を1年とし、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行うなど、安定し楽しい日々を送っていただけるよう取り組んでいる。 |                   |
| 27 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                                     | ケア記録を作成、気づきや工夫を含めて日々のご様子等、情報の共有に努めている。日々のケアの中の気づきをプランに活かすことができるよう努めている。         |   |                   |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | ご希望やご相談内容に合わせて出来る限りの柔軟な対応を心掛けている。   |   |                   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域資源を把握し安全で豊かな暮らしを本人の持っている力を活かして生活を続けていくことができるよう支援するよう心掛けている。                   |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | ご本人、ご家族の希望に合わせて対応、医師との連携を図り適切な医療を受けられるよう支援している。                                 | 入居時に医療機関についての説明をし希望も聞いている。現在は全利用者がホーム協力医の月2回の往診で対応している。週6日、パート看護師が2名在籍しており、利用者の健康管理と合わせ協力医との連携を取っている。歯科については必要に応じ協力歯科医への受診に職員が同行している。また、協力歯科の歯科衛生士が月1回来訪し利用者の口腔ケアへの対応と年1回職員対象に口腔ケアの研修会も行い口の健康に努めている。  |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 申し送りやカンファレンスを通じて、日々の、ケアの場で看護との連携を心掛け適切な看護を受けられることができるよう支援している。                  |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は病院関係者と密に連絡を取り合い適切な医療の提供につながるよう情報提供を、退院時は連携を図り安心して退院後の生活を送ることができるよう準備を整えている。 |   |                   |

グループホームうえまつ

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
|                                  |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33                               | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化、終末期についての指針を説明、できることを説明し十分に理解をいただいたうえで同意をいただいている。                                   | 重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に家族に説明し同意を頂いている。終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホームとの話し合いの機会を設け、家族の意向を確認の上、改めて同意書にサインを頂き医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。開設以来2名の方の看取りを行い、ホームとして出来る限りの支援に取り組み家族からも感謝の言葉を頂いている。また、年1回の看取り研修と合わせ、看取りの利用者が出た都度管理者と看護師が講師となり再度看取り研修を行い心の籠った支援に繋げている。  |                   |
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | マニュアルを作成、施設内研修の機会を設け周知している。  |   |                   |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 年2回の避難訓練を実施。利用者様と一緒に職員が想定の下避難を行い有事に備えている。区の方へ協力体制について相談しているところであるが感染対策のため避難訓練への参加は見合わせている。 | 新型コロナ禍の状況下、ホーム内部のみで年2回の防災訓練を行っている。6月には日中想定避難訓練を行い、消防署へ連絡の後利用者全員が玄関先まで移動しての訓練を実施した。9月には夜間想定とし各ユニット1名の職員で全利用者を玄関先まで移動するのに要する時間を確認している。合わせて緊急連絡網の確認、水消火器を使つての消火訓練、防火管理者が防災機器の点検・確認を行っている。終了後には反省会を開き、各職員の役割確認等を行っている。地域との協力体制の構築については新型コロナの影響を受け中断されているが話し合いを継続し、収束後には再開する予定である。備蓄は「水」「米」「缶詰め」等、3日分が準備されている。 |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |  |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている  | 入居時に個人情報の取り扱いについて説明、同意をいただいている。日々の支援の中で個人のプライバシーについて常に配慮を心掛けている。                           | ホールでの様子を見させていただく職員ははっきりとした口調で分かり易く、優しく問い掛けており微笑ましく感じた。また、「いかがですか」「どうでしょうか」等の問い掛けを行い、マンネリにならないよう心掛けている。呼び掛けは希望を聞き、苗字か名前を「さん」付けでお呼びしている。入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを忘れないようにしプライバシーに配慮している。  |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている  | 支援の際はご本人の意思決定を尊重し、常におうかがいの姿勢で声掛け、対応するよう心掛けている。   |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している                                    | 利用者様のペースに合わせて支援し、常におうかがいの姿勢でその人らしい暮らしができるように対応するよう心掛けている。                                  |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している   | 女性の利用者様が多く、皆様身支度には気を使っていらっしゃる。洋服選びや小物選びなど必要があれば支援している。                                     |   |                   |

グループホームうえまつ

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている         | メニュー作り等利用者様の意見をいただいたりお好みメニューの日を設定している。季節の食材やその時々メニューなど、おいしく召し上がっていただけるよう工夫を凝らしている。野菜の下ごしらえ、洗い物や茶碗ふきや味見など楽しめる範囲で参加していただいている。 | 全介助の方が若干名で、他の多くの利用者は全員自力で食事が摂れる状況である。献立は月末2週間前に次月の1ヶ月分の献立を考え、食材は3日分～1週間分が配達されるのでその当日の担当職員がアレンジし提供している。汁物、ご飯、料理など、温かい物は温かいうちにお出しするようにしている。誕生日、母の日、父の日等には海鮮丼、お寿司、ラーメン、サンドイッチ等をテイクアウトし、こどもの日にはハンバーガーを楽しみ、お彼岸等にはおやき、おはぎ、ピザトースト等をホームで作り、楽しいひと時を過ごしている。利用者のお手伝いについては一人ひとりの力量に合わせ「テーブル拭き」「茶碗拭き」等を職員と楽しみながら行っている。 |                   |
| 41 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている              | 法人内の栄養士にメニュー作成についての助言をいただいている。水分量や食事量の記録を行っている。お好みの飲み物やゼリーなどの形態の工夫などお一人おひとりに合わせた支援をしている。                                    |   |                   |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                       | 毎食後の口腔ケアへのご案内、道具のセッティング、口腔内の状態の確認等お一人おひとりに合わせて必要な支援を行っている。  |   |                   |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている       | 排泄のリズムを計りペースに合わせて案内、日中は皆様トイレへ案内させていただいている。布パンツへの変更、タイミングに合わせた声掛けなど自立に向けた支援を行っている。   | 職員の見守りを受け自立している方が半数弱、一部介助の方が半数弱、全介助の方が若干名という状況である。また、夜間のみポータブルトイレを使用している方が若干名となっている。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しているので状況に合わせ声掛けし、トイレにお連れしている。結果を排泄チェック表に残し、情報を共有しつつスムーズな排泄に繋げている。排便については3日間無い場合に排便コントロールを行うが、「オリゴ糖」「乳酸飲料」「ヨーグルト」「お茶」「ジュース」等、1日1,200cc～1,800ccの水分摂取を勧め、排便促進に繋げている。                                  |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                       | 水分や水分ゼリーのおすすめ、乳製品、繊維を含む食材の使用、より摂りやすい工夫、運動の機会の確保など対策に取り組んでいる。  |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことのできる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 個浴にて週2回を基本にお誘いしている。体調や希望に沿って支援している。ピンクやブルーの入浴剤やゆず湯などの季節の湯、バラやりんごの湯など楽しんでいただけるよう趣向を凝らしご用意している。                               | 全利用者が何らかの介助が必要な状況となっている。基本的には週2回の入浴とし、希望があれば週3回の入浴を行っている。入浴拒否の方が数名いるが日を変えたり、人を変えたりして週2回の入浴を確保している。また、入浴後には「スポーツドリンク」「しそジュース」等を楽しんでいる。入浴剤を使用し、また、「ゆず湯」「リンゴ湯」「バラ湯」等季節のお風呂も楽しんでいる。   |                   |

グループホームうえまつ

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している  | 入居時なじみの寝具をお持ちいただくようお願いをしている。お部屋の空調など環境に配慮し、お一人おひとりに合わせて対応、支援している。  |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | 入居時、変更時等服薬情報を共有し副作用や内服についての注意点など看護師から説明、周知している。  |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている  | 生活歴や嗜好、楽しみを把握したうえで日々の支援を行っている。編み物やランプ、テーブル拭き、野菜の下ごしらえや味付けなどそれぞれに張り合いや楽しみを無理なく持てるよう支援を心掛けている。             |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 感染症対策のため外出は制限をさせていただいた。ドライブや他に人がいない場所を選んでの外出対応、玄関前での日向ぼっこや建物周りの散歩などにとどめ、ご家族との面会も制限、ガラス越し、タブレットなどを使用して対応。 | 外出時、自力歩行の方と杖使用の方が若干名で、歩行器使用の方が三分の二弱、車いす使用の方が数名という状況になっている。新型コロナ禍が続き外出が難しい状況が続いているが、天気の良い日には近くを散歩したり、玄関先に用意したイスとテーブルに座りお茶を楽しみながら外気浴を楽しんだりしている。そのような中、年数回、桜の花見や紅葉狩り、夜のドライブ等、人出の少ない所を選び感染対策を取った上で外出をし外の雰囲気を楽しんでいる。新型コロナ収束後には年間計画に従い外出を楽しむ予定であるという。 |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 感染症対策のため買い物や外食などのお金を使う場面の提供ができなかった。飴やお菓子、シャンプーなどの生活用品を施設の中で疑似買い物を楽しんでいた。                                 |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話、タブレットを使用してお話しする楽しみ、お手紙の楽しみを持っていただけるよう支援している。クリスマスカードや年賀状などご家族にお出した。                                   |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は大きな変化なく対応させていただくことを心掛けている。季節の行事に合わせて利用者様と一緒に飾りつけを行っている。春には桜や花の飾りつけ、七夕には笹を、ハロウィンやクリスマスの飾りつけを楽しんでいた。  | 陽当りの良い玄関先には利用者の外気浴用にスチール製のイスとテーブルが設けられている。玄関を入ると左右に1丁目、2丁目のユニットがあり、広い共用部分では元気な職員の声に合わせて利用者が体を動かしている様子が見られ、微笑ましく感じられた。ホール内には「七夕飾り」などの季節の飾り付けがされ、毎月発行されるお便り「グループホームうえまつ」や利用者の作品などが数多く掲示板に貼られ、積極的に活動していることが窺えた。                                    |                   |

グループホームうえまつ

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている             | 共有スペースにソファをご用意、一人でゆっくり、他の方と一緒に、その時々のごし方を、廊下の端に椅子を並べて日向ぼっこをしていただいたり思い思いに過ごしていただくことができるよう支援している。            |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に馴染みのものをお持ちいただくようお願いしている。長年愛用のタンスなど、配置についてはご本人と相談しながら対応、心地よく過ごしていただくことができるよう配慮している。                    | 大きなクローゼットが完備された各居室は整理整頓が行き届き、清潔感漂う中で利用者が生活している。持ち込みは自由で、家族と相談をし、タンス、衣装ケース、イス、テレビ等をレイアウトしている。また、壁には時計や家族の写真、自分の作品等が飾られ、自由な日々を過ごしていることを窺うことができた。 |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している    | 建物内バリアフリー対応、廊下、浴室などには手すりを、トイレ内便座横には跳ね上げ式の手すりを設置、トイレや浴室入り口にはわかりやすいマークを、利用者様目線で設置。安全でできることを活かした環境づくりに努めている。 |  |                   |